

身近な文化財

第九話

床の間と文化財

年の暮れになると、家の大掃除を行う家庭も多いのではないだろうか。

日頃使っていない蔵や物置をのぞいてみると、中には古い品物が見つかったりすることもあ

るかもしれない。そうしたもののの中に、身近な文化財が眠っていることがあります。

例えば、先祖や昔の家業について書かれた書き付け（古文書）や、床の間に飾っていた掛軸などです。

床の間には、地元ゆかりの画家や書家の掛軸を掛けたり調度品を飾り、日々の暮らしの彩りとしていた家庭も多かったようです。しかし、生活の現代化が進むとともに、床の間や和室自体を作らない家も増えており、そうした昔ながらの調度品が眠ったままになっていることも多

いようです。

床の間には、こういった掛軸が掛けられていたのでしょうか。もちろん家によって違いはありますが、例えば、お正月には松竹梅や鶴亀など縁起のよい絵を飾り、桃の節句には桃の花やひな人形の絵を飾ります。あるいは桜や紅葉など、季節の草花の絵を飾ります。また、家の守りとして「天照大神」などの神号を書いたものや、商売繁盛を願う恵比寿大黒の絵などを飾り、家内の厄除けや繁栄を願うこと

もありました。

これらは、美術品であるとともに、家の歴史を物語る資料でもあります。もしもそういったものを見つけたことがあれば、家の歴史やかつての家の様子を振り返ってみてはいかがでしょう。



▲おめでたい鶴亀の絵の掛軸
(市歴史民俗資料館蔵)
※作者の浦生羅漢は、江戸時代後期の白河の画家で、地元に多くの作品を残しました。

☎文化財課 ☎2310

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.9

☎本庁舎都市計画課 内2232

今月号は、景観啓発の取り組みをお知らせします。
11月6日に、親子景観学習「しらかわ景観探検隊」を開催しました。

これは、次の世代を担う皆さんに景観に興味や関心を持ってもらうことを目的に、日本大学工学部の協力のもと、市内の小学4年生から6年生の児童と保護者を対象に初めて実施したものです。

隊員に任命された参加者は、景観マップをもとに、白河駅や旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷、白河ハリストス正教会などのチェックポイントを巡り、そこで出題される景観クイズに挑戦するなど、楽しみながら白河の景観を学びました。

白河には、歴史的な建物や豊かな自然など、素敵な景観資源が数多くあります。皆さんもまち歩きをして、お気に入りの景観を見つけてみませんか。



しらかわ景観探検隊員の声

協定をつくって市の景観を良くしようとしていることが分かった。

白河駅は木造でできていた。

お天気も紅葉もきれいで楽しかった。

木の看板のお店が多かった。

自分が住んでいる市だけど、知らないことがまだまだたくさんあった。

身近に福島県指定重要文化財が色々あって、もっとよく見てみたいと思った。

